二、滑稽俳句とは　～滑稽の定義～

河村正浩

観賞文や合評鼎談などを詠むと、滑稽に近接する表現や言葉が多々ある。私の文章にしてしかり。そこで一度これらを羅列し整理しておきたい。

諧　　謔	「諧」も「謔」も戯れの意。おどけ、滑稽。
俳 諧 味	俳味。俳諧的な味わい、飄逸（ひょういつ）、洒脱の要素を持つ洗練された微笑の世界。
おかしみ	おかしく思わせる軽妙な滑稽。
ユーモア	上品な洒落、諧謔、おかしみ（人間的な温かさを感じるおかしみ）。
アイロニー	イロニー、皮肉、あてこすり、反語、逆説、風刺。
ペーソス	哀歓、哀愁、悲哀。
フモール	ユーモアに同じ。
ウイット	機智、機転、頓知、才知。
エスプリ	ウイットに同じ。
その他	わび・さび・しおり、ブラックユーモア、洒脱、軽妙、洒落、駄洒落、ジョーク、笑い、嗤い、微笑、微苦笑。

以上、意味的にはほとんど変わらない。これらを内容的に見て敢えて分類すると、「アイロニー」「ペーソス」「ウイット」そして「これに該当しないユーモア」（月並み？）であろうか。ともあれ、どの表現を滑稽として定義するかは、各人の自由である。

嘗て「青玄」の伊丹三樹彦は、「俳句の三味はユーモア、アイロニー、ペーソス」と言った。私も常々そう思ってきた。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。

中でもアイロニーは前述の通り、反語、逆説、風刺という意味を持っているが、俳句のような短い詩型の中で多くのことを語ろうとするには、いきおいイローニッシュな手法を用いざるを得ない。即ち、この手法を用いれば、表現上に現れた事象によって実はもっと深い作者の内面を伝達することができるからである。ここに俳句独自の特徴の一つがあると言ってよいだろう。

それは時に内容の悲劇性が表面上では喜劇性となって現れることもあるし、その逆の場合もある。そして読み手はそこから汲み取った親しさや哀れさを感じ取り、作者のペーソスを味わうのである。

芭蕉の時代から、わび・さび・しおり・おかしみなどが俳句の味わいとされてきたが、ユーモア、アイロニー、ペーソスも又、俳句が今日まで持ち続けて来た本質的な味わいと言ってよい。しかも、これらは意識して詠めるものではなく、自然に滲み出るものである。

「滑稽」をいかに定義するのかは、人それぞれであろうが、滑稽には上記のあらゆる要素が含まれている。個人的には、観賞上、滑稽を表現する言葉としては「俳諧味」が最も妥当のように思うが、改めて、滑稽の奥深さと難しさ、面白さを感じる。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。